

京都CF!

京都の大人気雑誌
読入マガジン
(シー・エフ)

を創りたい人、
募集中!



現在、「京都CF!」では、編集制作のアシスタントをして下さる方を募集しています。「京都CF!」が好きな方、京の街を遊びまわるのが好きな方、原稿を書きたい方、雑誌編集に興味がある方、ぜひご応募下さい。

私たちと一緒に「京都CF!」を創ってませんか?

まずは郵送にて

「履歴書」

「京都CF!でやりたいこと(400字程度、書式不問)」
をお送り下さい。

●問い合わせ先

京都CF! 編集部

アシスタント募集係 担当: 坂東(ばんどう)

〒604-8134

京都市中京区六角通烏丸東入ル 大輝六角ビル2F

E-mail: bando@m21.or.jp

※今回の募集は社員募集ではありません
のでご了承ください。

※今回電話でのご応募・ご質問は受け付けておりません
のでご了承ください。

第二十六巻「東京行き」編

嶋原司の こっぴたい 花語

太夫とは?

「正五位」の別荘で、歌舞音曲の他、茶・草・香・歌など公家や武家の奥方同様の知識を持った芸妓に与えられた妓女の最高官位のこと。現在は花街のうち京都・橋筋のみに4人現存し、則太夫はその内のお一方、中学卒業後船橋甲部で舞妓となり、6年間種めその後太夫への道に進む。五事(他、日本画・写真・手話)を勉強し、フリーペーパー「こっぴたい新聞」の発行やイベント企画など活動の幅は広い。

憧れの
東京行き
昔の話



Tsukasa



司事務所
075-594-0568
<http://kyoto.cool.ne.jp/tukasa21>

うちも今でこそよう東京へ行ったりしますが、昔は行くのも大がかりやったんです。京都から丸一日がかり。早よ行ける様になって半日、6時間と長旅です。

舞妓はんになって半年程すると「東京行き」という行事(?)がおす。言うた様に、昔は一日がかりですやろ、お姉さん稽古が秀でた新人の舞妓を東京へ連れて行くんです。昔から東京のお客さんも多おしたんやろね。東京のお客様へ顔見せしに行つて、「今度この妓が出ました。宜しゅうおたの申します」と紹介されます。三日間いってたら3~5人位のお客様に会います。たんとのお客様の中から選ばれんのが、エエのか悪いのかわからしまへんけど、お客様は他のお客様に負けんとこ〜という気持ちと、遠いところから来たんやから、色んなとこへ遊びに連れてやろ〜という気持ちで、ええとこへ連れとくれやす。

いつ頃からかはわからしまへん。多分、維新以後どすやろね。お客様らが天皇さんと一緒に江戸へ行つてしまわはつたり、かくもおてた勤王の獅子が皆、江戸へ行かはつて会いにいったはつたんですやろ。

ところが今や2時間半。おまけに地方の妓ばかりで皆東京に行つたりして。東京行くのが珍しくなつて、今はもうこんな行事してへんそうす。時代の流れどすなア。

万が一を考えてサボリーマンの撮影は控えました。ちなみに一通り撮影を終えた後、カメラマンと共にズボンまくしあげて鴨川に突入しました。



今月の特集取材中の出来事。取材も終わり、同行していたカメラマンと鴨川の風景写真を撮りに出掛けたところ…ゆる〜いこのエリアにもう一つの性格を発見。真昼間にもかかわらずスーツ姿が芝生でごろ〜ん、あれ? あつちにもごろ〜ん、おいおい! あのオッチャン缶ビール飲んでるよ!! どうやらこの辺りは、サボリーマンの聖地でもあるようだ。しかも木陰で昼寝、ではなくクソ暑い日差しを浴びながら…ははあ〜ん、謎は全て解けた。会社に戻った時に「外回りしてきましたあ!」と言わんばかりに日焼けしてりゃ誰も真昼間に芝生でごろ〜ん&ビールをぶっはあ〜してたなんて解らないもんね。しかも汗かいてアルコールも抜ける、と。いや、もう呆れを通り越して奥深きサボリーマンの姿に尊敬の眼差し。すると隣のカメラマンが一言。「ここでビール飲んだら気持ちええやろなあ〜。う、うん。絶対気持ちいいよ、うん、そうだよ〜。し、しまつたあ、鴨川沿いに蔓延するサボリーマンに感染してしまったようだよ。頭の中で天使と悪魔が格闘するも悪魔の1ラウンドKO勝ち。でもって近くのコンビニへ直行&プシュッと開けてぶっはあ〜。ううっ、こりゃたまらん! そして編集部の皆様、ゴメンナサイ! でもね、サボリーマンの気持ちが痛いほどわかるんですよ。一度やっちゃつたらやめられない、とまらないってもんで。というわけで、今度は休日に実行しようかな、と。読者の皆様、CF!片手に鴨川あたりで一杯やりませんか?

Editor's voice

ホントのチルアウトエリアは鴨川限定、
さあサボリーマンの聖地へいざ出陣!?

本誌編集部 / 坂東寛士